

出演者紹介

「相馬流れ山踊り」双葉町相馬流れ山踊り保存会のみなさん

伝統の相馬野馬追で披露される「相馬流れ山踊り」。双葉町では婦人会のみなさんが中心となって、相馬野馬追の時期に踊られてきました。震災後も有志が集まり、埼玉県加須市や茨城県つくば市など県外でも踊りを披露してきました。平成 28 年には相馬野馬追の本祭りで踊りの担当になり「双葉町相馬流れ山踊り保存会」が立ち上げられました。雲雀ヶ原祭場地において大熊町と合同で総勢 80 名の踊りを披露し、以来、会員が集い練習を通して強い絆を育み、伝統を踊り継いでいくことを目的に活動を続けています。



「相馬流れ山踊り」とは 「相馬流れ山」は相馬地方の民謡で相馬野馬追に出陣した武者達に唄われたそうです。相馬流れ山踊りはこの民謡に合わせて、陣笠、陣羽織、袴の伝統衣装を身に着け、金銀表裏の扇子、黒柄杓を手に踊ります。地面を蹴るしぐさ、手の動きは男踊りを感じさせる力強さがあります。

「民謡の朗読」吉田 孝子さん（富岡町出身）

富岡町では田畑を作り、牛を飼っていた吉田さん。平成 27 年に茨城町に来て栗農家になりました。一方で昔話の語り部として、福島方言を茨城のみなさんに伝える活動をしています。これまで茨城大学等において開催されたプロジェクトにも出演し広く活躍中です。今回は「高津戸(たかとう)餅」「屁ったれ嫁さま」の 2 話を披露していただきます。



「高津戸餅」とは 富岡町の伝説で、今から 1000 年くらい前に富岡町手岡（ちゅうか）にあった高津戸城でのお話です。「ちゅうかのれきし」という本を出版された遠藤さんからお話を聞き、それにもとづく資料などをあわせて、方言を活かした民謡にしました。

「屁ったれ嫁さま」とは 楡葉町北田の橋本さん(ならば納豆屋のおばあちゃんで、みんなから親しまれています)から聞いたお話です。他の地域にも似たようなお話はありますが、このお話は最後にえっ！と驚きの展開が待っています。

「川添の神楽」浪江町川添芸能保存会のみなさん（映像）

お正月に地区の家々を回り、悪魔祓いや豊年満作を祈願する福島県浪江町川添地区に伝わる民俗芸能です。震災後いち早く活動を再開しお正月に仮設住宅や、後には復興公営住宅を巡って浪江町のみなさんに勇気を与えてきました。また、震災前の風景を取り戻したと、お正月には震災の犠牲者が眠る慰霊碑前でも、神楽を披露しています。



「川添の神楽」とは 神楽の歴史は 100 年余りです。獅子舞では、獅子頭に頭を噛んでもらうと病気をしないという風習があります。川添の神楽の獅子舞は、多いときは幕の中に 10 名を超える人を迎え入れて、勇ましく舞い、幕の中に入るとご利益があるとされています。これは福島県内では浪江町だけにある風習だそうです。

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、内容変更の可能性があります。団体の HP・FB(フェイスブック)等に掲載いたします。ふうあいねっと公式 LINE の QR コードからもご確認いただけます。

